

たしなめられた印象だ。

走り面はそこそこいいと
考えていたけれど、やはりこ
ういう変化を体験してしまう
と欲が出てしまう。感じ方ひ
とつ変わっただけで、単なる
移動もドライブになる。やは

り、ブランドで売る市販品の強さは健在だ。

同社からは、同時期にもう一シリーズ、新製品がリリースされている。それが、『ネオオクトロ』によるバッテリーホルダーとオイルフィラーキャップ。エンジンオイルに味を占め、ついつい手が出てしまった。このクルマには、バナソニック『カオス』を早くから導入しており、ブルートップの鮮やかな見た目が、素っ気ない純正ホルダーで隠されるのが心残りだった。

重量感のあるホルダーは、アルミ削り出しのアルマイト仕上げ。他方、オイルフィラー

キャップはジュラルミンの削り出し。手に持ったその時から満足感が高い。世代でもあるのだろう。削り出しや重量感といったメカニカルな響きに、めっぽう弱い。れっきとした機能部品であるオルタネーター／クランクブローと同じビジュアルという点もおおいにくさ。所有欲をくすぐるところだ。

基本は最低限のポイントだけ、効果的に市販品を導入しよう——こんな考えもここまで来れば今や昔。同じ経緯で、過去にも次から次とアフターパーツを買い漁っていたことは結局、若い時から変なやつていない。

それでも、いいのだ。楽しいのだから。

それでは、新車導入後1年半が過ぎ、さあそろそろといったところで今回の話。目をつけたのは、新しいカスタムパーツブランド「ネオプロト」。オルタネーターやクランクブリーなど、レスポンスアップや燃費アップなど、狙いどころはまさに大人向けの渋いもので、以前よりその動向に注目していたブランドだ。

体感でき、愉しく、美しいをコンセプトとしているネオ

プロト。リリース元であるプロトから、新たにライシアップに加えられたのが、「ネオプロテックス」のバッヂがつけられた「Fシリーズ」エンジンオイルだ。

このクルマはこれまでに三度、エンジンオイルを交換してきた。そのうち二度が純正指定オイル、そしてもう一度がガソリンスタンドのアップグレード品だ。

エンジンの基本性能に不満はないとして、微振動とノイ

ズ、そしてやや反応が穏やかなフイーリングはこのエンジン
の性格のよう。ここまでの経験
では、オイル交換で対処できる
ものではないと考えていた。

オイル交換後の変化も思い
のほか大きい。東京都内の渋
滞が多い区間を走り、ちよい
ど乗り機会も多いこともあって、
負担も大きいと言えるだろう。
う。だからこそ、都度交換サ
イクルを短めにしてきたが、
現状の改善には至らなかった。
『ネオプロテックスF』は体感

できるエンジンレスボンスをうたっている。省燃費性能とエンジン保護性能を加えた3つの軸を重視し、評価車両としてレガシィツーリングワゴンも使用されているそうだが、市販ハイグレードオイルへの初トライとして、うってつけだろう。

A black and white photograph showing a man from the side, wearing glasses and a light-colored shirt, driving a car. He is looking out the driver's side window. The car's interior, including the steering wheel and side mirror, is visible. The background outside the car shows a road and some trees.



▲やヤトウが立っていたエンジンフィーリングも、スムーズにならされた感じ。走りへの貢献については、停止状態からの出足が大きく目立った点だ。メーカーによれば、この性能は長期間に渡って体感できるという。5000km程度まで引っ張って、その過程を見守りたい。

◀見た目に大きな違いがあるわけではない。高性能オイルのアドバンテージはむしろナノテクノロジーに宿る。このオイルの場合、キーは「C60 フラーレン」だろう。

A can of REPSOL F 5W-40 motor oil and a blue REPSOL oil filter are shown on a car engine. The can is silver and black with the REPSOL logo and 'F 5W-40' text. The filter is blue with the REPSOL logo. A red oil cap is also visible on the engine. A small white box with a red character is in the bottom right corner.

派手なことはしたくないけれど、ちょっといいものが欲しい———こんな観点にもばっちりハマるのが、プロトから発売されている各種四輪用製品。新製品3つを立て続けにレポートだ。

ちょっとした手入れで、気分は大違い！

それこそオリジナルの要望を満たす、数多くのチューニング&ドレスアッププランが用意されるのが、カスタム人気も高いレガシィというクルマ。

それでも、この個体には、そこまでの役割を求めている。
ちょっとした不満さえ解消できればいい。そんな時、飛び込んできたのが
新パーツブランド『プロト』の新製品リリースだった。

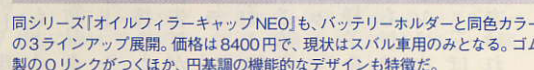
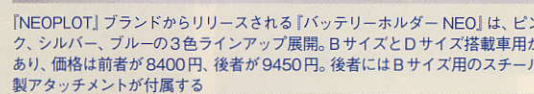


チョイスしたのは[S
 2.5W-40]、4.5Lで 価
 格は9975円。使用推
 奨車両はスバル車に
 外にもハイスペックエ
 ンジン搭載車が多く、
 ワイドレンジ&プラス
 0.5Lの設定が嬉しい。
 このほかにも[H7.5W-
 40 (9975円 / 4.5L)
 と[R 10W-50 (1万
 920円 / 4.5L)]があ
 り、様々な体感差をも
 たらしてくれるはずだ

このクルマに
求めるものとは

走りを強く意識させる歴代のモデルと比べ、ごく大人しめのスタイルにまとめられた現行のレガシイは、既存ファン以外の乗り替え派が多いと聞く。TVコマーシャルでもおなじみの「ぶつからないクルマ」が浸透した結果とも言えるだろう。

自身も、まさにそうだ。今でこそ、ウワサの「アイサイト」搭載車が増えたとはいえ、購入に踏み切った一昨年の持古



レーは確かに気になったが、こればかりはしょうがない。だから納車後も、何よりの期待はアイサイトへのもの。正直走りにはそれほど……だったのだが、エンジンどうこうというより、走りのベースポテンシャルは想像以上だった。走る・止まる・曲がるといった全ての面でなほと思わせる。走り好きのファンが多いのも、所有したからこそよくわかった点だ。

これが血気盛んな頃だったから、豊富に用意されているア

フターパーツに目移りしていたことだろう。けれど自身はそれほど若くない。上を求めたらキリがないのはよくわかつている。絶対的なスピードというよりも、自分の感覚にズレのない応答性というものが、そういうものをより求めるようになった。その点で言えばこのレガシイ、不足不満足は一切ない。というよりこれで十分。いや期待以上だ。

基本は純正品でいいけれどどこだけは…